

鹿角市まちづくりビジョン



平成 21 年 3 月

秋 田 県 鹿 角 市

ごあいさつ

中心市街地の活性化は、人口減少と少子高齢化の進展のなかで全国の多くの都市が直面している課題であり、本市においても将来都市像に掲げる「出逢い賑わい夢をかなえるまち・鹿角」を実現していくためにも重要性の高い課題であります。

このような状況のなかで、中心市街地の将来像を描き、まちづくりを進めていくべき方向性を示す「鹿角市まちづくりビジョン」を策定することにいたしました。

策定にあたっては、公募による市民の方々からも参画いただいた市民検討委員会や、まちづくり懇話会をはじめ、コミュニティミーティングを開催するなど、市民の皆様との共働による検討を重ねてまいりました。

本ビジョンでは、中心市街地に人の流れを呼び込み、定住人口と交流人口の増加を図るため、「住む人、訪れる人、活動する人を増やす」ことを目標に、本ビジョンに示した将来像の実現に向け、実施していく具体的な事業、市民と行政との役割分担などを位置付ける事業計画を定め、活性化に取り組むことにしております。

最後に、本ビジョンの策定にあたりまして、市民検討委員会並びにまちづくり懇話会の皆様、貴重なご意見・ご提言をいただきました多くの市民の皆さんに心より感謝申し上げます。



鹿角市長 児玉 一

目 次

1 まちづくりビジョンの位置づけと対象区域	1
2 中心市街地の現状と動向予測	2
3 まちづくりの課題	4
4 中心市街地の将来像	6
・まちづくりビジョンの構想イメージ	8
5 中心市街地活性化の基本方針と目標	10
6 中心市街地活性化の施策	12
・鹿角組合総合病院跡地利活用方針	14
・JR鹿角花輪駅前整備方針	16
・定期市場整備方針	17
7 まちづくりビジョンの推進	18
8 まちづくりビジョン策定体制	19

1 まちづくりビジョンの位置づけと対象区域

■まちづくりビジョンの位置づけ

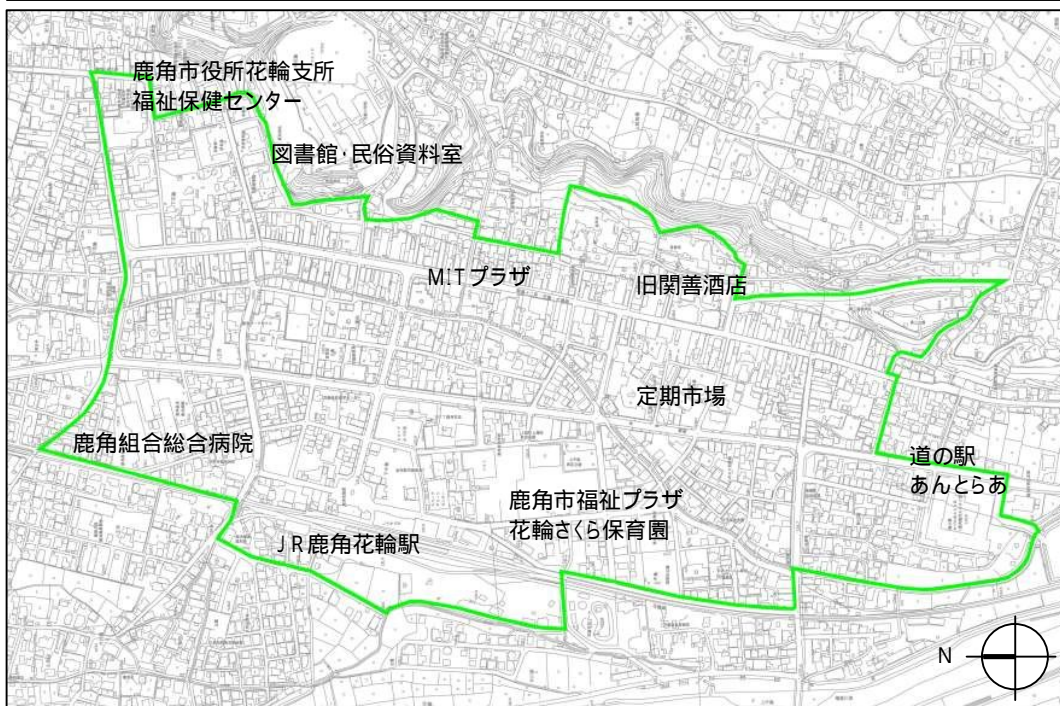
- 鹿角市まちづくりビジョンは、鹿角市の中心市街地である花輪市街地の目指すべき将来像を明らかにし、まちづくりの基本的な方向性を示します。
- 本ビジョンの計画期間は、概ね 10 年間とします。
- 本ビジョンの内容は、上位計画である「第 5 次鹿角市総合計画」、「鹿角市都市計画マスタープラン」等をふまえ、また、平成 18 年度に改正された中心市街地活性化法に係る動向等を見据え、中心市街地の現状と動向予測から課題を整理し、目指すべき中心市街地の将来像、実現に向けた中心市街地活性化の基本方針と目標、目標達成のための施策を定めるものです。
- 本ビジョンをもとに、中心市街地の活性化のために取り組む事業、達成目標及び実施計画を明らかにし、事業を着実に実施するものとします。

■まちづくりビジョンの対象区域

中心市街地は、人口が集積し、様々な都市機能が集積する市の中心となる地域であるとともに、歴史、文化、街並みなど独自の地域資源が多く存在し市の顔としての特性も持ち合わせています。

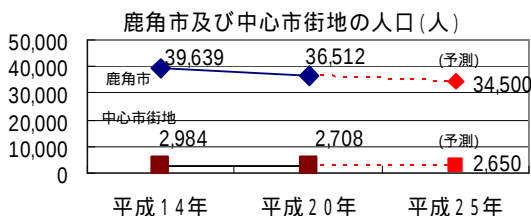
このことから、中心市街地のまちづくりには、都市機能の増進、経済活力の向上などを総合的かつ一体的に推進することで、周辺地域や市全体の発展、活性化につなげていくことが求められます。

本ビジョンの検討対象とする区域は、平成 14 年 3 月策定の旧「鹿角市中心市街地活性化基本計画」で定められた中心市街地の区域（約 64ha）とします。

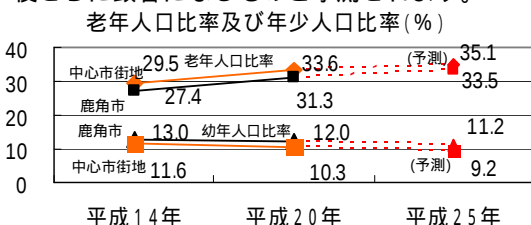


2 中心市街地の現状と動向予測

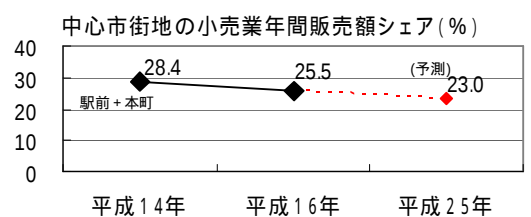
中心市街地の人口は減少を続けており、今後
もさらに減少することが予測されます。



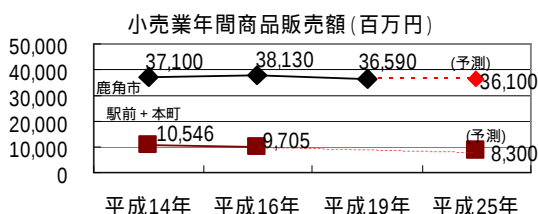
中心市街地では、少子高齢化が進んでおり、今
後さらに顕著になるものと予測されます。



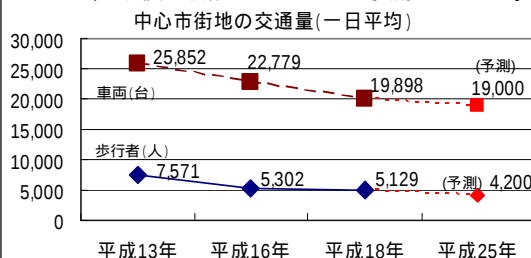
小売業に関し、中心市街地の既存商店街の市
全体に占める割合は減少を続けています。



中心市街地の小売業の年間商品販売額は、減
少傾向にあり、今後も減少が予測されます。



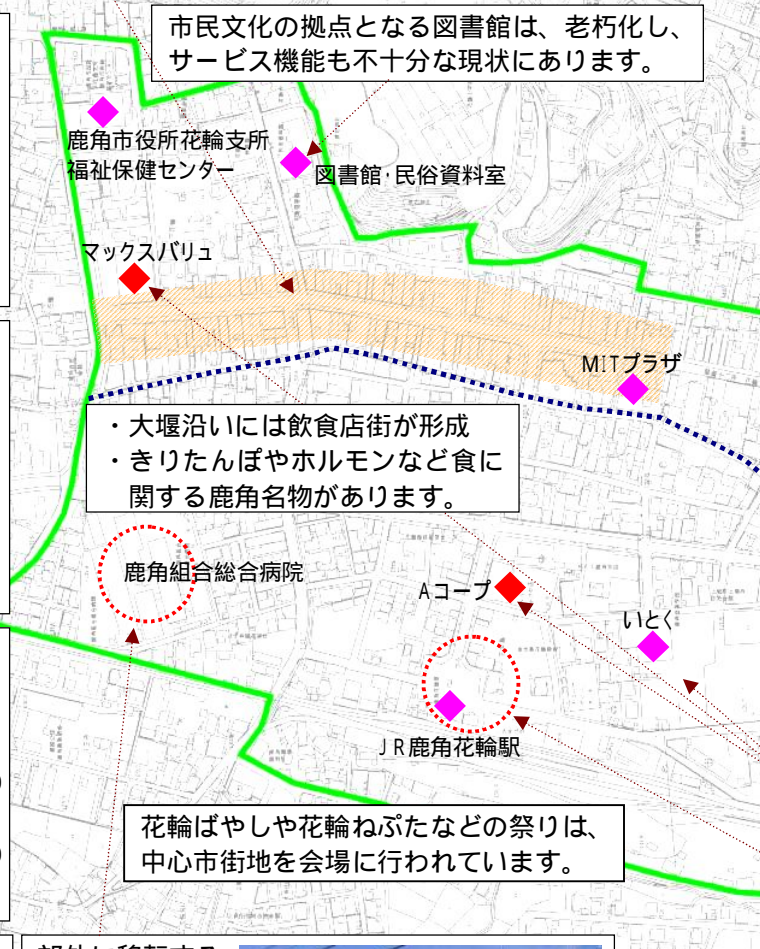
中心市街地の歩行者と車両の交通量は減少し
ており、今後も減少することが予測されます。



新町、大町、駅
前等の既存商店
街では、商業力
の低下や空き店
舗が増加するな
ど、活性化に向
けた取り組みが
必要です。



市民文化の拠点となる図書館は、老朽化し、
サービス機能も不十分な現状にあります。



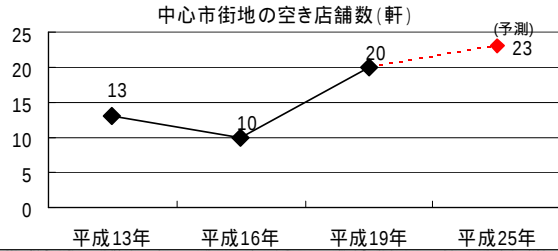
・大堰沿いには飲食店街が形成
・きりたんぼやホルモンなど食に
関する鹿角名物があります。

花輪ばやしや花輪ねぶたなどの祭りは、
中心市街地を会場に行われています。

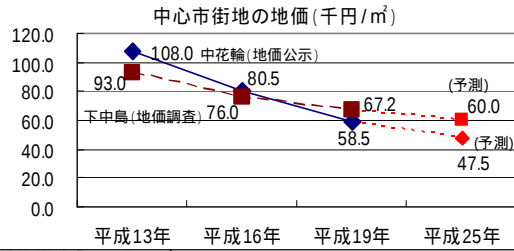
郊外に移転する
鹿角組合総合病
院の跡地利用に
ついては、市民
が広範に利用で
き、中心市街地
の活性化に資す
る利活用が求め
られます。



中心市街地では空き店舗が増加しており、現状のままだではさらに増加が予測されます。



中心市街地の地価は、大幅な下落を示しており、今後も減少することが予測されます。



中心市街地には歴史・文化の資源が数多く存在しており、旧関善酒店ではNPOにより文化活動の拠点としての取り組みなどが行われています。

旧関善酒店

定期市場

鹿角市福祉プラザ

花輪さくら保育園

道の駅
あんたらあ

いとく、Aコープ、マックスバリュなどのスーパーが日常の買物の上での核店舗となっています。

J R 鹿角花輪駅前、まちの玄関口・交通結節点として、また、祭りの場として利用されており、機能の維持・充実が求められます。



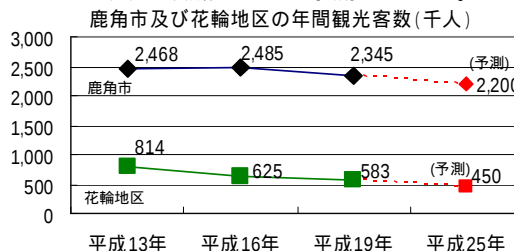
定期市場は、出店者の高齢化や後継者不足などで出店者数が減少し、施設の老朽化も進んでいることから、整備について検討が求められます。



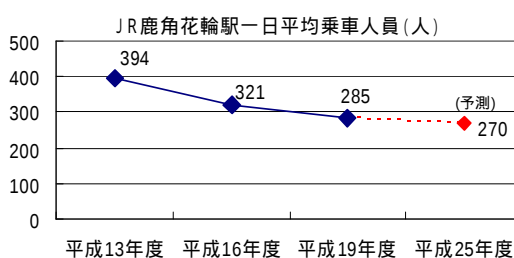
中心市街地には、あんたらあを始めとする観光施設や公共公益施設、文化施設、寺社などが集積しており、これらを活かした取り組みが求められます。



鹿角市の観光客数は、減少傾向にあり、花輪地区でも大きく減少すると予測されます。



J R 鹿角花輪駅の乗客人員は大幅に減少しており、今後も減少することが予測されます。



(注) 図中の平成25年度の予測値は、過去の実数に基づいて単純推計したもので、現在のまま推移した場合の推計結果を表しています。

3 まちづくりの課題

■ 中心市街地活性化法のポイント

- ・ 様々な都市機能の市街地への集約（まちのコンパクト化）と、中心市街地の賑わい回復（コミュニティとしての魅力向上）により、コンパクトで賑わいあふれるまちづくりが求められています。
- ・ 中心市街地活性化基本計画の認定には、円滑かつ確実に実施できる地域ぐるみの取り組みであり、活性化に相当程度寄与することが合理的に説明され、達成状況を的確に把握できる数値目標が設定されることが要件となります。

■ 旧「中心市街地活性化基本計画」の取り組みの問題点

- ・ 広範な事業が網羅された結果、事業主体や財源の確保が不明確な計画まで位置づけられる形になっていました。
- ・ 活性化事業の具体的な目標が設定されておらず、目標達成へのプロセスが不明確で、関係者間の合意形成も十分行われない状況になっていました。
- ・ 広く市民を巻き込む取り組みが不十分でした。

■ 中心市街地の現状と動向予測からの課題

データに現れた中心市街地の人口減少と少子高齢化の進展、店舗の減少と空き店舗の増加、通行量の減少など、空洞化に歯止めを掛ける取り組みが必要です。

地域にある歴史・文化資源を保存・継承すると同時に、地域資源を活かして中心市街地の活性化を図る必要があります。

既存商店街の活性化と同時に、鹿角組合総合病院跡地やＪＲ鹿角花輪駅前など拠点となる地区の再生の取り組みが必要です。

■ 市民検討委員会における協議・市民意識調査等からの課題

定住人口の増加を図る施策の推進が必要であると同時に、交流人口の増加、観光客の増加を図るための重点施策の取り組み実施が求められます。

中心市街地の衰退につながる空き店舗の増加に歯止めを掛けるため、空き店舗の利活用に積極的に取り組むことが求められています。

鹿角の歴史や文化への関心を高め、誇りと愛着をもち、鹿角の文化をエネルギーとして、まちづくりに活かしていくことが求められます。

市内の経済循環を果たすために、地元の商店街でできるだけ消費するよう、地元の人買い物が行きたくくなるような魅力をつくりあげることが必要です。

網羅的に多くの事業に取り組むのではなく、的を絞って、重点的な取り組みを行い、具体的な結果を出すことが必要です。

鹿角組合総合病院の跡地は、図書館だけの立地とせず、市民文化活動の拠点、コミュニティ活動の拠点など、広く市民が利用する多面的な活用が求められています。

ＪＲ鹿角花輪駅前地区は、交通結節点としての機能整備と、まちの玄関口にふさわしい、魅力のある景観整備などが求められています。

定期市場（市日）は、出店者と利用客が減少し、施設の老朽化も進んでいることから、継続と活性化のために、そのあり方を検討して活性化に取り組む必要があります。

■現状及び市民意向のまとめ

・人口減少時代、少子高齢社会の進展 ・地域外からの交流人口の呼び込み、観光客の誘致の必要性	
・商店の魅力低下、商店街の集客力低下 ・地元でモノを消費し地域でお金を循環させる仕組みが必要 ・大町、新町でも観光施設による集客 ・商店を集約して商店街をコンパクト化 ・空き店舗の有効活用 ・核となる商業施設の誘致 ・イベント、催し物等による集客 ・まちなか観光で商店街の賑わい回復	
・開善、市日をはじめとする地域の歴史、資源の活用と、商店街との連携 ・まちづくりの資源（造り酒屋、大堰等）は多く揃っている ・中心市街地は市のシンボル ・鹿角の歴史、資源に関する教育の充実 ・郷土への誇りと愛着を育てまちの活性化を図ることが必要 ・地産地消の推進	
・文化的、教養的、活動的な催しで集客 ・人が集まる仕組みづくり ・定期的イベント、まつり等の開催 ・芸術、文化に触れる環境の整備 ・鹿角の歴史、資源に関する教育の充実 ・まちなかに図書館や文化施設等の整備	
・駐車場不足 ・商店街への交通手段の不足、高齢者に対する交通対策 ・商店街への案内が不十分 ・歩行者にやさしい歩行環境の整備 ・市民、観光客が気軽に利用できる公園等の整備 ・医療の充実 ・まちなかの休憩施設、トイレの不備	
・まちの機能の集約化 ・市街地の空地の利活用 ・医療の充実 ・まちなかに図書館や文化施設等の整備	

■中心市街地のまちづくりの課題

(課題1) 定住人口、交流人口の確保 ・高齢者にも安心して暮らせる住環境整備を進める必要があります。 ・まちなか居住を促進する施策の検討が求められます。 ・多彩な歴史・文化等の資源にさらに磨きをかけ、観光客、来街客の増加を図ることが必要です。
(課題2) 商店街の活性化 ・大町、新町、駅前等の商店街活性化を図るため、空き店舗の有効活用やまちなか観光等に取り組み、賑わいを生み出す必要があります。
(課題3) 地域資源の活用 ・鹿角の恵まれた自然、歴史、文化に関する地域資源を最大限活かして、中心市街地の魅力づくりを行い、集客力を高める必要があります。
(課題4) 文化・交流活動の創造 ・多くの市民が参加する多彩な文化・交流活動が活発に行われるまちとする必要があります。
(課題5) 住みやすい訪れやすい都市環境の整備 ・歩いて暮らせる便利な生活環境を整備するとともに、来街しやすいまちにする必要があります。
(課題6) 必要機能の集約化と必要な都市施設の整備 ・生活に係る都市機能の集約・集積を図り、利便性が高く、様々な活動が身近にできるまちとする必要があります。

4 中心市街地の将来像

■ 中心市街地活性化の方向づけ

第5次鹿角市総合計画（目標年次：平成13年度～平成22年度）

- ・将来都市像を「出逢い賑わい夢をかなえるまち・鹿角」とし、基本目標の一つとして「活力と魅力を育むまちづくり」を掲げ、活力ある商工業と魅力ある商店街の振興、中心市街地の活性化などを進めるとしています。

鹿角市都市計画マスタープラン（目標年次：平成18年～平成37年）

- ・まちづくりの基本理念を「ふれあいのある出会いのまち・鹿角」、中心市街地が位置する中央部地区のまちづくりの目標を「豊かな自然に抱かれ、昔からの賑わいが息づくまち」、まちづくりの基本方針に「自然の恵みを実感できるまちづくり」、「人が集まる賑わいの中心市街地の形成」、「住みやすい生活環境づくり」を掲げています。

中心市街地活性化法（平成18年度改正）

- ・「多様な都市機能がコンパクトに集積した、歩いて暮らせる生活空間の実現」と「より活力ある地域経済社会を確立すること」の両者を追及する目標を設定し、概ね5年以内を目安に、達成すべき具体的数値目標を設定するものとしています。

■ 鹿角市及び中心市街地の特性

鹿角市は、十和田八幡平国立公園を抱え、東北自動車道で盛岡・青森・八戸などの主要都市と約1時間で結ばれ、地理的に北東北の中心に位置しています。

盆地特有の気候と豊かな水が育む農畜産物や、温泉・渓谷などの多様な自然の恵みがあふれ、多くの史跡が残り、祭りや民俗芸能が盛んで、いにしえからの歴史が息づくまちであり、さらにスキーや駅伝をはじめとするスポーツの盛んなまちでもあります。

中心市街地には、歴史ある商店街やJR鹿角花輪駅の立地をはじめ、商業・業務・文化・教育・交通等の都市機能が集積し、鹿角市の交通の要衝・経済文化活動の中心として重要な役割を果たしてきました。

花輪ばやしに代表される伝統的な祭りの実施、江戸時代から続く市日の開催、酒造りや鍛冶の伝統が続いているなど、豊かな歴史・文化資源に恵まれているとともに、道の駅「あんたらあ」など観光拠点もあります。

㈱花の輪やNPO関善賑わい屋敷などの市民組織が、まちづくりに係る活動を積極的に行っています。



日本一の祭囃子・花輪ばやし



古くから伝わる花輪市日



市街地で行われるヴァーナルデック大会

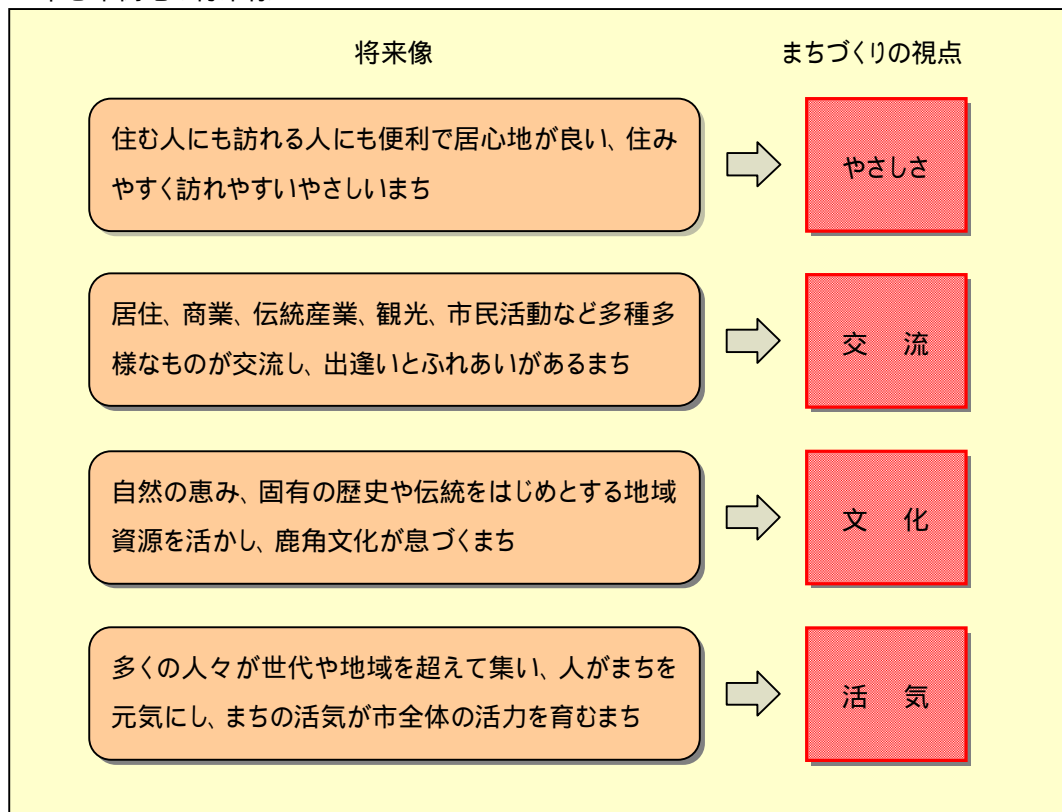
■ 市民検討委員会アンケートにみる将来像

- ・ 中心市街地の歴史、文化を活用して観光化。中心市街地を鹿角観光の中心に。
- ・ 必要な生活環境が地域内で完結する地域に。エネルギーの消費を抑える。
- ・ 駅前を中心に、買物、イベント、史跡の散策が楽しめるように。
- ・ 行政機関、病院、文化施設等、日常生活に必要な機能を中心市街地に集約する。
- ・ 歩行者が安心して歩けるようにする。
- ・ 昼間人口を確保する。鹿角市の中心としての位置づけを。
- ・ 市民に地元利用を求める。施設は分散しない。駅前、中央通りの商店を連続させる。
- ・ 中心市街地にたくさん人が住めるよう、集合住宅を整備する。
- ・ 地域外との交流を活発にする。



中心市街地の将来像を下記のとおり設定し、「やさしさ」「交流」「文化」「活気」にあふれるまちにすることで、「住む人、訪れる人、活動する人を増やす」ことを目指すものとなりました。

■ 中心市街地の将来像



まちづくりの目標

住む人、訪れる人、活動する人を増やす

まちづくりビジョンの構想イメージ

■ 構想イメージ

まちづくりの重点課題である「鹿角組合総合病院跡地地区」、「JR鹿角花輪駅前地区」、「旧関善酒店・定期市場地区」、「既存商店街の新町・大町地区」を重点整備地区として、すでに整備済みの「福祉プラザ地区」、「道の駅・あんたらあ」と合わせた6つの地区を中心市街地活性化の交流拠点として位置づけます。

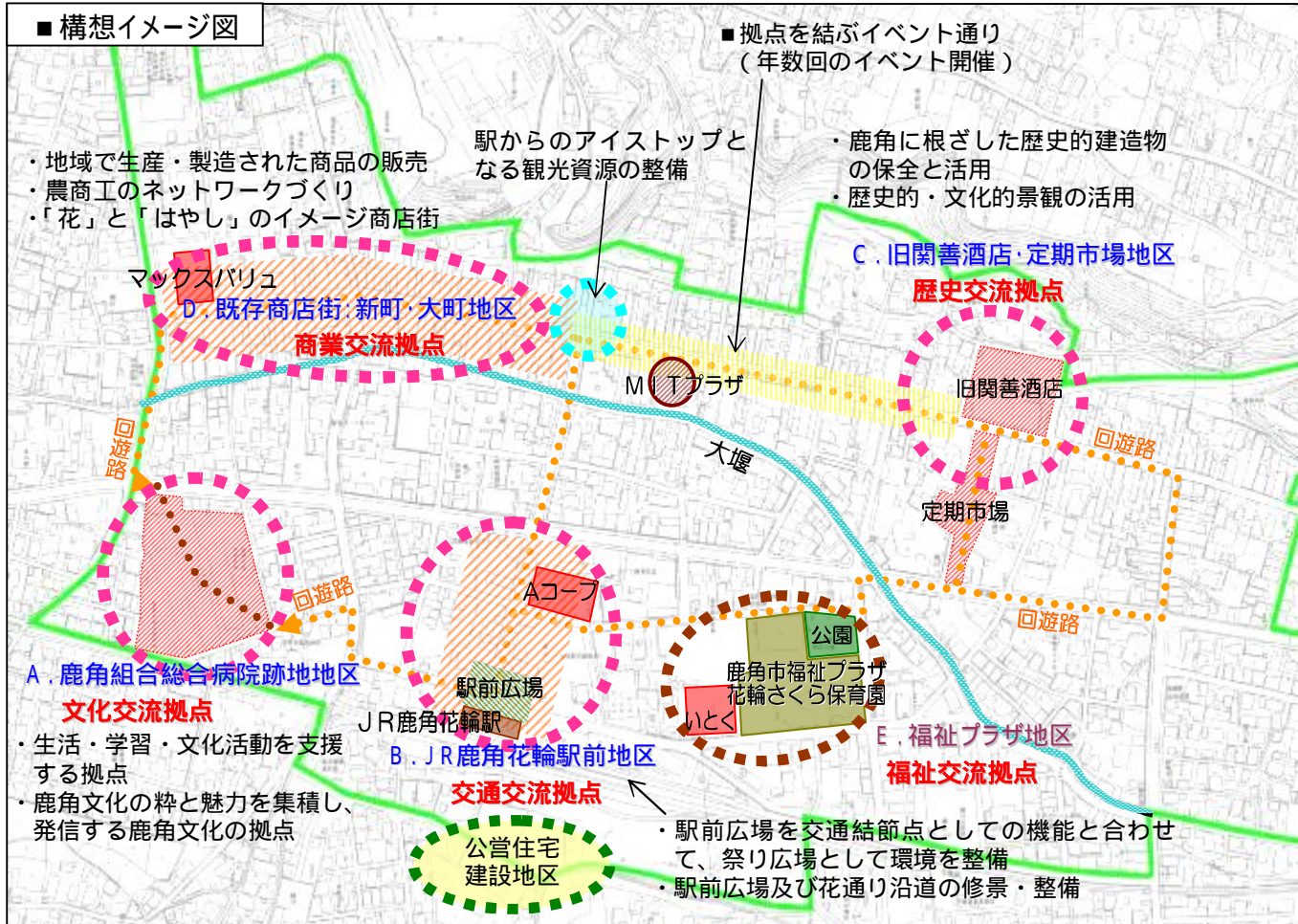
重点整備地区において、まちなか居住を支え、産業の振興を図るための拠点的な都市機能の集積を図り、住みやすく訪れやすいやさしいまちづくりを進めます。

重点整備地区すべてにおいて、「交流の創出」の視点を踏まえた整備を進めるものとし、市民の生活拠点となるばかりでなく、観光客・来街客を集客できるまちなか観光の視点を意識し、交流人口の増加を図ります。

重点整備地区の拠点を安全で歩きやすい街路でつなぎ、まちなかの人の流れを生み出し、回遊を促進させます。回遊路と中心を流れる大堰の沿道は、固有の歴史・文化や自然等の魅力ある景観づくりを進めます。

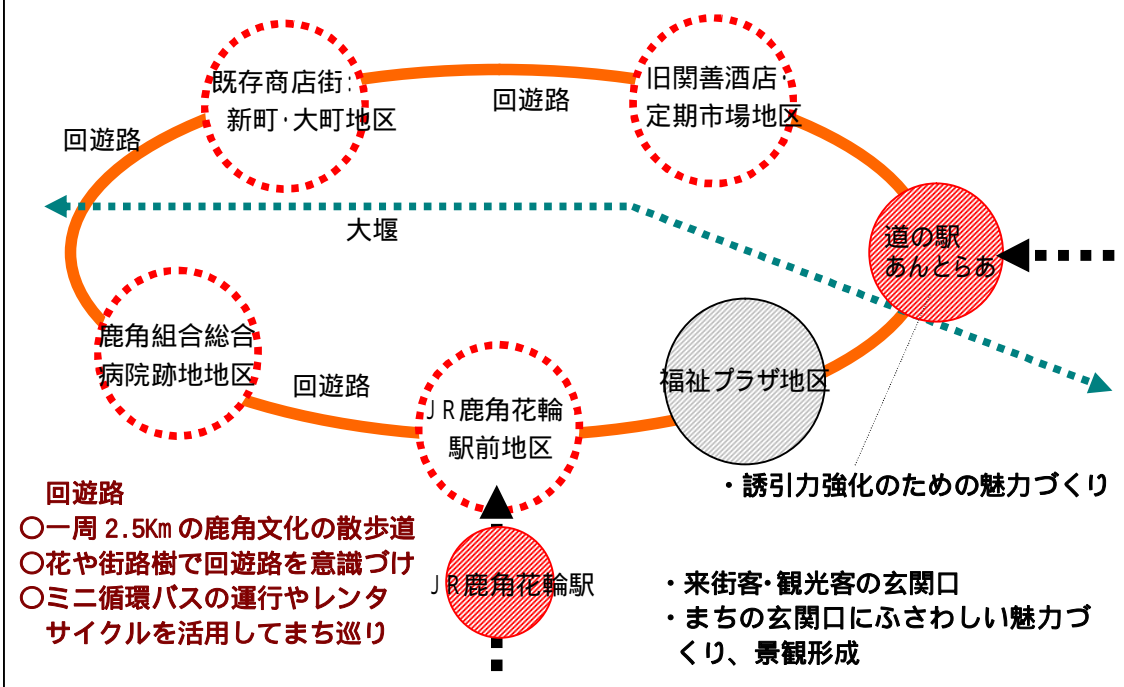
JR鹿角花輪駅と道の駅「あんたらあ」は、来街客の誘引力強化のための魅力づくりを進めます。6つの交流拠点が輪となって、まちの元気と活力が生まれるまちづくりを目指します。

■ 構想イメージ図



■ 中心市街地の基本的構図

○6つの交流拠点を核としたネットワークにより、回遊する人の流れと経済循環の輪を生み出します。



■ 中心市街地拠点の機能分担

A. 鹿角組合総合病院跡地地区 「文化交流拠点」

- 市民の生活や学習・文化活動を支援する都市機能の充実
- 鹿角文化の粋と魅力を集積し、市民や観光客に発信する鹿角文化の総合拠点

B. JR鹿角花輪駅前地区 「交通交流拠点」

- 交通結節点としての利便性と待合環境の充実
- 駅前広場沿道及び花通り沿道の修景・整備によるまちの玄関口としての魅力の向上

C. 旧関善酒店・定期市場地区 「歴史交流拠点」

- 鹿角に根ざした歴史文化が息づく空間づくり
- 歴史的な建造物や景観の活用による集客力の向上

D. 既存商店街・新町・大町地区 「商業交流拠点」

- 農商工連携による地元で生産・製造された商品販売や花輪ばやし等を活用したイメージ戦略による商業機能の付加・充実
- 空き店舗を活用しての憩いの場整備やビジネスチャレンジを支援

E. 福祉プラザ地区 「福祉交流拠点」

- 福祉施策の充実によるまちなか居住の安心感の確保
- 子どもからお年寄り、障がいのある人などもふれあえる福祉交流の推進

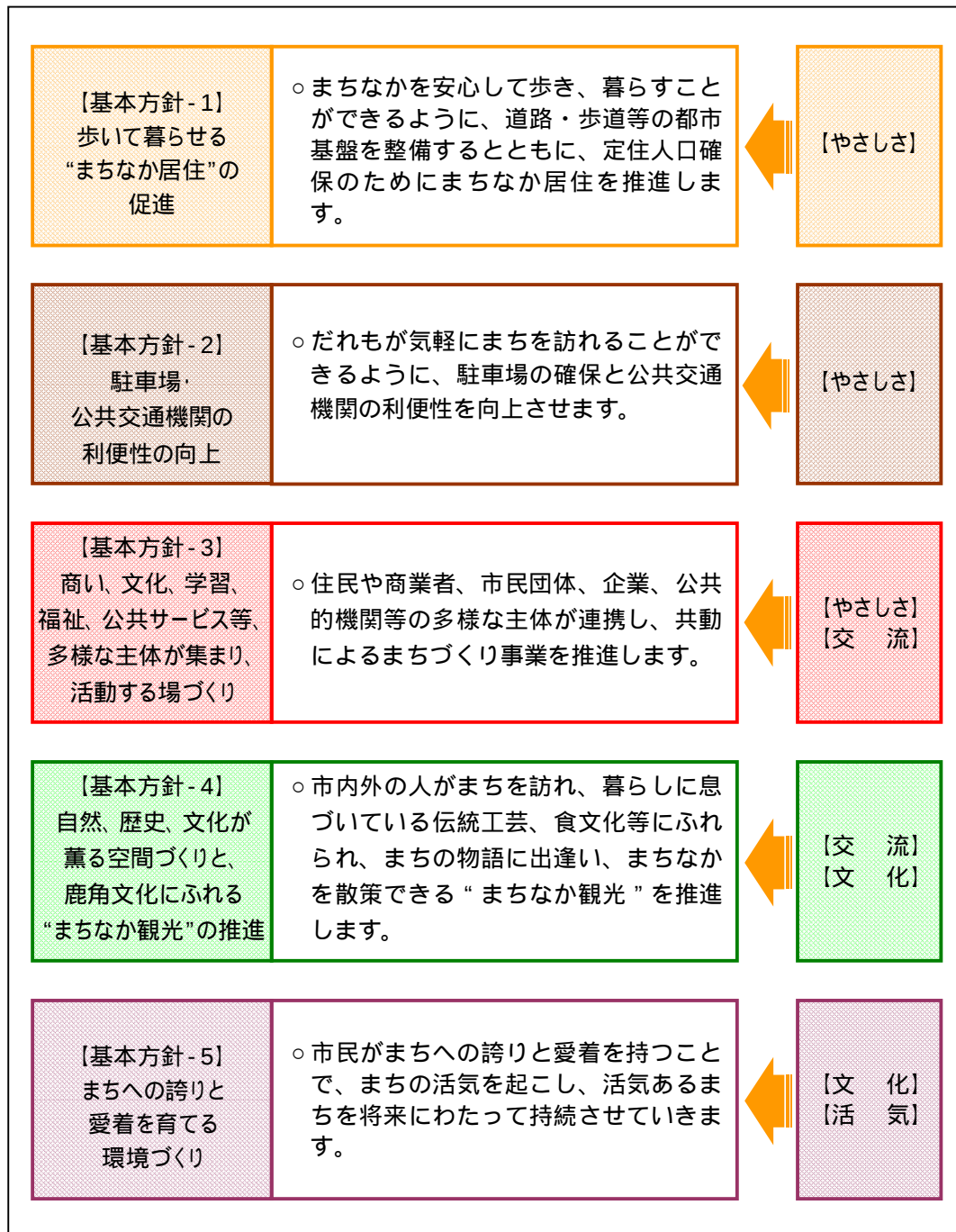
F. 道の駅「あんたらあ」 「観光交流拠点」

- 観光案内と情報発信による観光拠点機能の向上
- 鹿角の食、産業、文化等を活かした体験観光の充実

5 中心市街地活性化の基本方針と目標

中心市街地の将来像の実現に向け、まちづくりの視点として設定した「やさしさ」「交流」「文化」「活気」に対応する、下記の 5 つの基本方針に基づいて、施策を展開するものとした。

■ 中心市街地活性化の基本方針



まちづくりの目標

住む人、訪れる人、活動する人を増やす



中心市街地活性化の基本方針を踏まえ、また、まちづくりの目標として設定した「住む人、訪れる人、活動する人を増やす」のもと、目指すべき具体的な目標を下記のとおり掲げ、目標達成に向けた施策の取り組みを進めていきます。

■ 中心市街地活性化の目標

○ まちなか居住人口の確保

中心市街地における暮らしやすい居住環境の整備を進めることにより、まちなか居住人口の減少に歯止めを掛けるとともに、まちなかへの居住を促す施策により、定住人口の確保に努めます。

○ 観光客や来街客の増加

地域資源を十分に活かすとともに、駐車場の確保や鉄道・バス利用の利便性の向上を図るなど、まちなか観光を促す仕組みづくりを行い、観光客や来街者の増加に努めます。

○ 商店街の空き店舗数の減少

中心市街地の空き店舗を活用して店舗開業を目指す様々な人材に対して開業の場を提供し、空き店舗数の減少に努めます。

○ 商店街の歩行者通行客の増加

個店の魅力づくりと商店街でのイベントやまちなか観光への取り組みなどを進めることにより、買い物客と観光客の増加に努めます。

○ 文化・交流活動の場の確保

市民の文化活動や交流活動の場を確保し、多彩な活動やイベント等を開催し、集客力を高めるよう努めます。

6 中心市街地活性化の施策

中心市街地の活性化の実現を図るため、基本方針に基づき、以下に掲げる施策に取り組むものとします。

■ 中心市街地活性化の施策

基本方針	施 策	
基本方針 1 歩いて暮らせる “まちなか居住” の促進	住宅の整備	歩いて多様な商業・都市機能を利用できる中心市街地の特長を活かし、快適で住み良い住環境を整備するとともに、まちなかへの居住を支援します。
	都市基盤の整備	住む人にも訪れる人にも、安全で快適な道路整備を進めるとともに、憩いのスペースの整備等、まちなかに人の流れを生み出す都市基盤の整備を図ります。
基本方針 2 駐車場・公共交通 の利便性の向上	来街者が利用しやすい駐車場の確保	市内外の人が気軽にまちを訪れ、ゆっくり散歩できるような受け入れ態勢として、利便性のよい駐車場の確保を促進します。
	利便性が高く利用しやすい公共交通の確保	子どもや高齢者、観光客などにも対応した公共交通機関の充実や利便性向上を図り、まちを訪れやすく、回遊しやすい環境を目指します。
基本方針 3 商い、文化、学習、福祉、公共サービス等、多様な主体が集まり、活動する場づくり	空き店舗、空地の利活用	空き店舗を、憩いのスペースやテナントの誘致などにより有効活用するとともに、空地は、広場や公園、駐車場等に整備するなど、市民や観光客が利用できるように有効活用を図ります。
	イベント等の開催	住民・商店・事業所・市等の連携により、中心市街地の資源を活用した商業的、文化・スポーツ的なイベントをさらに充実させ、賑わいの創出を推進します。 また、各種のイベントを通して、「スキーと駅伝のまち」、「きりたんぽ発祥の地」等、鹿角の独自性を市内外へ情報発信します。



ワンコイン循環バスの運行



商店街でのイベント開催



登録有形文化財・旧関善酒店

基本方針	施 策	
基本方針 3 商い、文化、学習、福祉、公共サービス等、多様な主体が集まり、活動する場づくり	市民活動や文化活動・学習活動・交流事業の促進	多様な主体が集い、さまざまな市民活動、文化活動、学習活動、交流活動を通して中心市街地の活気が生まれるよう、活動の場づくりを進めます。
	健康でいきいきと生活できる環境整備	高齢者や子育て家族をはじめ、誰もが安心して暮らせるよう、医療・福祉機関のネットワークや病院と市街地を結ぶ交通環境を整備すること等により、医療・福祉サービスの充実を図ります。
基本方針 4 自然、歴史、文化が薫る空間づくりと、鹿角文化にふれる“まちなか観光”の推進	歴史資源、文化資源の保存・活用	花輪ばやしなどの祭りや地域の歴史、食文化等の多彩な文化を継承し、鹿角らしい空間づくりとその魅力発信を図ります。
	まちなか観光の受け入れ態勢づくり	まちを訪れる人にもわかりやすい案内板の整備、観光案内人の育成等により、まち全体でおもてなしの雰囲気づくりを進め、より多くの多様な交流が生まれるまちを目指します。
基本方針 5 まちへの誇りと愛着を育てる環境づくり	住むまちへの誇りと愛着を育む郷土学習と鹿角学の推進	市民が地域の歴史や文化に深い愛着と誇りを持ち、鹿角らしさを意識して、積極的にまちづくりに参加するように、郷土学習と鹿角学を推進します。
	まちを元気にしてまちを創生する人材が育つ生涯学習環境の整備	産業・福祉・教育文化等の市民が主役となった多様な活動を通して、地域活性化を図るために、まちづくり、ひとづくりの活動拠点の整備を進めます。

鹿角組合総合病院跡地利活用方針

■ 鹿角組合病院跡地利活用に求められる課題

- 1 中心市街地の拠点の一つとして活性化に資すること
中心市街地におけるまちづくりの重点整備地区の一つとして、他の拠点と連携し、役割分担を行いながら、中心市街地活性化に資する都市機能の整備を進めます。
- 2 市民の生活・学習・文化活動を支え、市民が集い、ふれあう拠点となること
鹿角市の中心市街地としての位置づけをふまえ、市民の生活や学習、文化活動等を支援する都市機能の集積を図り、市民が集い、ふれあう拠点として整備を行います。
- 3 地域創生とまちづくり、ひとづくりを果たすこと
跡地利用を通して、新たな地域の活力を創造するとともに、持続可能なまちづくりとそれを支えるひとづくりを果たしていくための整備を行います。

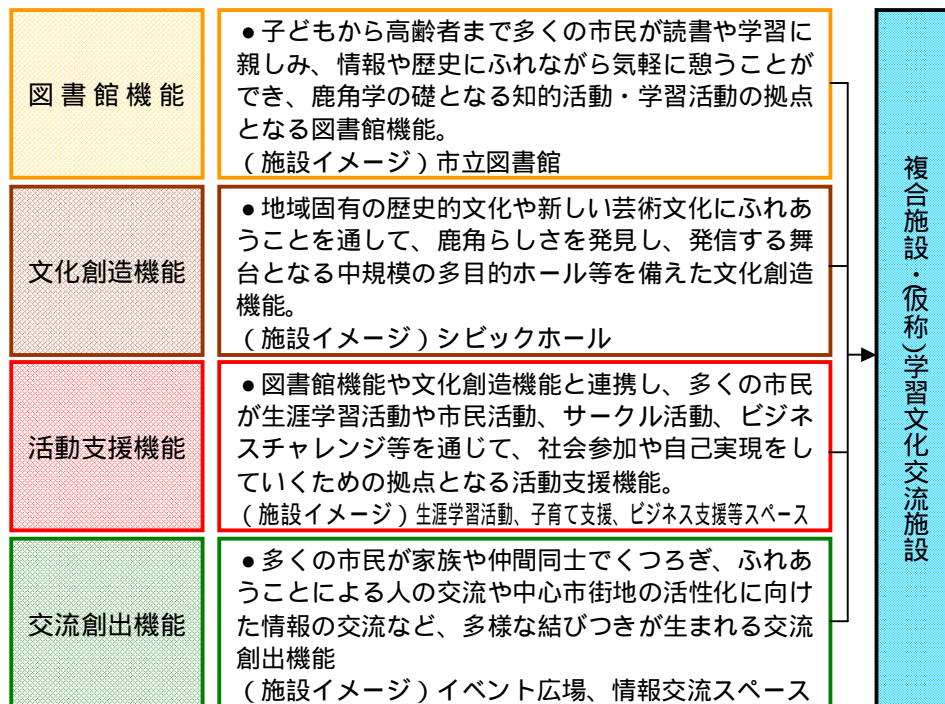
■ 鹿角組合病院跡地利活用に関する市民意識(平成20年度市民意識調査)

図書館との複合機能について

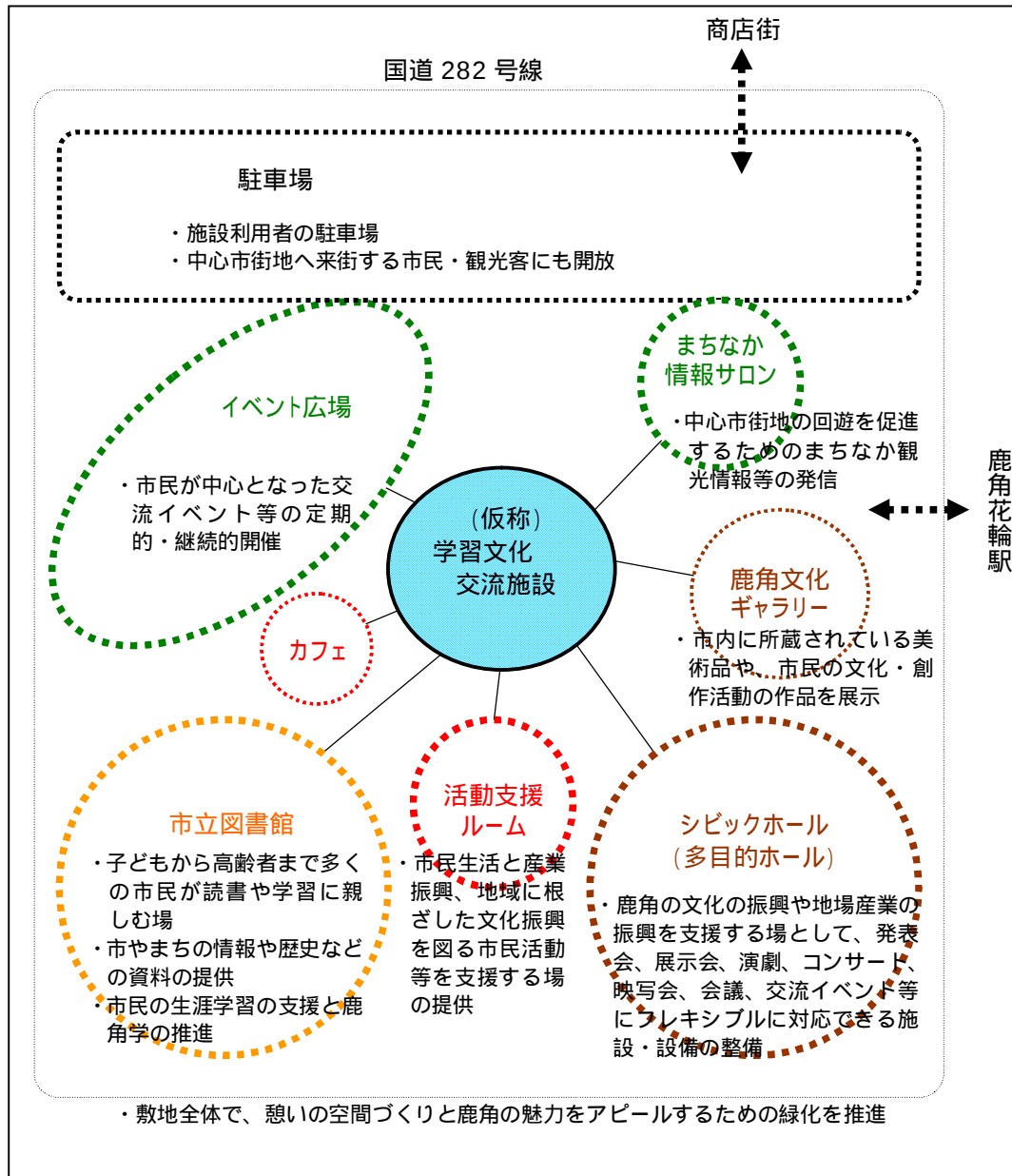
- ・「芸術文化に触れる機会を充実すること」や「市民同士のふれあい、交流が生まれること」に対する回答が多く、文化機能や交流機能を兼ね備えた市民文化の拠点となる複合施設が求められています。

■ 基本的機能

市民要望及び行政課題として整備が求められ、既存施設と重複しない都市機能として、図書館機能、多目的ホールによる文化創造機能、生涯学習活動や子育て活動、ビジネス活動を支援する活動支援機能、賑わいや活性化に資する交流創出機能を複合的に整備することにより、市民の生活・学習・文化活動を支援し、地域創生を図ります。



■ 鹿角組合総合病院跡地利活用の構成要素



多目的ホール(イメージ)



イベント広場(イメージ)



図書館(イメージ)

JR鹿角花輪駅前整備方針

■駅前地区の位置づけ

○JR鹿角花輪駅前地区は、中心市街地における重点整備地区であり、交通交流拠点としての機能を担う地区として位置づけます。

- ・駅前地区は、まちの玄関口及び交通結節点として、交通利便性を高め、来街客の誘引力強化のための魅力づくりを進めます。
- ・市民の生活拠点となるばかりでなく、観光客・来街客を集客できるまちなか観光の視点を意識し、交流人口の増加に資する地区整備を進めます。

■駅前地区の整備基本方針

交通結節点として、利用客の利便性や待合環境の向上を図ります。

安全でわかりやすい交通動線の整備を進めます。

駅前広場や花通り沿道の修景・整備により、まちの玄関口として魅力向上を図ります。花輪ばやしをはじめとする祭りやイベントなど賑わいの場となるように駅前広場の環境整備を行ないます。

駅前と周辺地区との往来を生むために、必要施設の整備と情報提供機能等の充実を図ります。

JR鹿角花輪駅前整備方針のイメージ

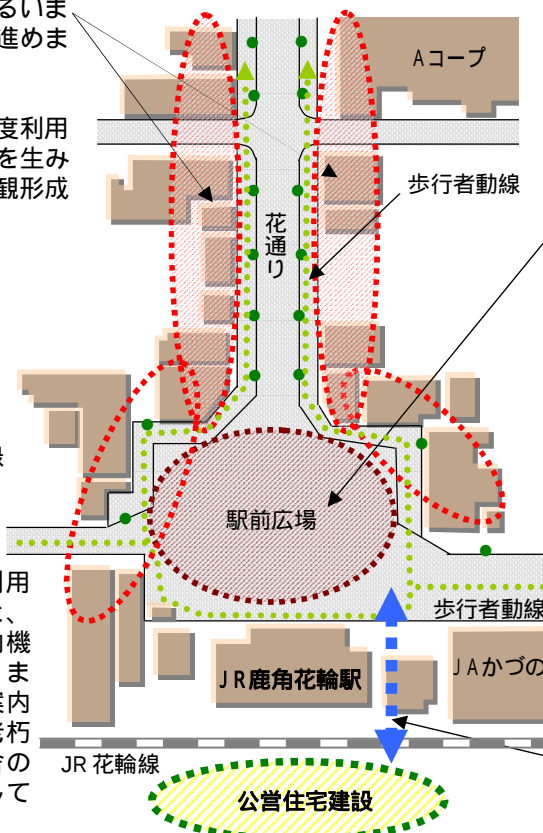
- ・統一感のある明るいまち並みの整備を進めます。

- ・建物の集約と高度利用により公共空地を生み出し、良質な景観形成を図ります。



- ・街路樹とともに、店頭や敷地の緑化に努めます。

- ・鉄道やバスの利用客の待合環境と、観光客への案内機能の充実を図ります。待合所と案内所の整備は、老朽化している駅舎の整備にも配慮して進めます。



- ・駅前広場は、「花輪ばやし」の中心会場として、祭り時も想定した整備を行います。

- ・安全で快適な歩行者動線の確保に取り組みます。

- ・まちなか情報等の発信と案内の充実に取り組みます。

- ・駅の西側との連絡通路の整備を推進します。

定期市場整備方針

■ 市日（定期市場）の現状と継続のための課題

市日（定期市場）の現状

- ・ 花輪の市日は、商いの場、買い物場として 400 年以上も続き、住民の暮らしと密接な関わりを持ち歴史と文化に培われた風物詩となっています。
- ・ 現在は、地場産品等の適正な販売を図ることを目的に、公の施設として定期市場を設置し、毎月 3 と 8 の付く日に定期市が開催されています。

継続のための課題

- ・ 商いの場、買い物場の確保、また地域文化の継承のため、より良い環境で利用できる態勢の検討が必要となっています。
- ・ 人口減少と高齢化の進展、ライフスタイルや消費動向の変化のなかで、利用者数の維持と利用ニーズへの的確な対応が求められています。
- ・ 出店者、市民、行政の市日に対する共通認識の醸成と支持が必要となっています。
- ・ 効率的な施設設置と、適正な管理運営が求められます。

■ 市日（定期市場）の基本方針

- 基本方針 1 → 市民から支持されることに加え、人口減少の中で観光客もターゲットにすることで利用客を確保し、併せて市日の魅力（文化、食の安全）を活かした活性化策に取り組みます。
- 基本方針 2 → 様々な市民・団体等と連携して開設することで、相乗効果を発揮し利用客の増加を図ります。
- 基本方針 3 → 定期開催にこだわらず、市民・観光客のニーズに対応し、常時開催を視野に入れた開催日を考慮します。
- 基本方針 4 → 開設・運営における出店者と行政並びに関係者の適正な役割分担により、民間の運営ノウハウや営業力を活かした活性化に取り組みます。

（参考）市日（定期市場）活性化のための取り組み

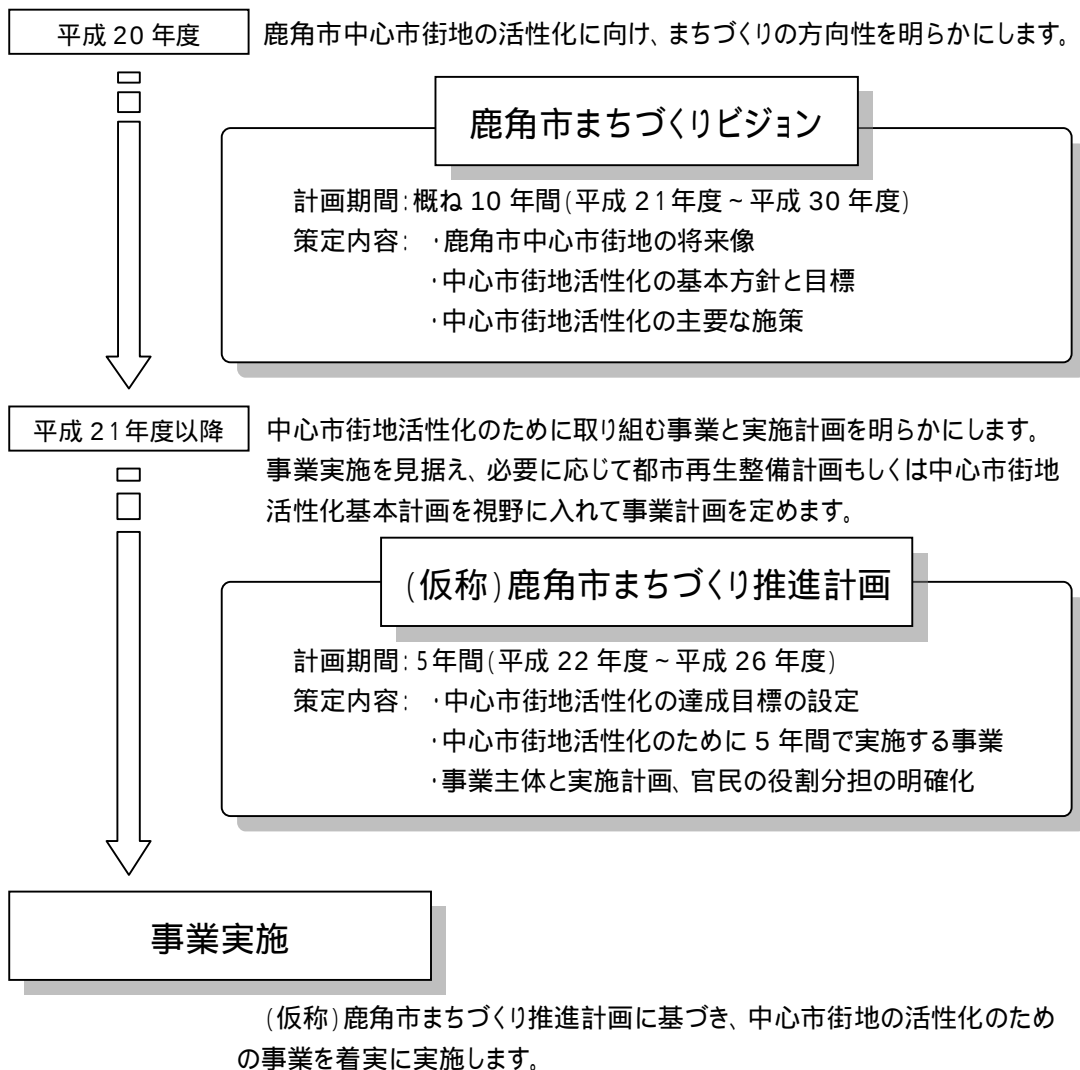
- ・ 食の安全・安心を確保し、本物の食の「台所」としての価値を高めます。
- ・ 運営力と営業力を向上させるために、コーディネーター等の育成を図ります。
- ・ 市日の認知度を高め、魅力を広く周知するため、PR 等の充実を図ります。
- ・ 花輪市日ならではの「名物」や「特産品」の開発を進めます。
- ・ 市日の開催日以外は、様々な団体等と連携し、植木市、陶器市、市民の手作り作品の展示・販売、フリーマーケット、軽トラック市など、様々な「市」のメッカとして定期市場の常時活用を図ります。
- ・ 市日の特徴である対面販売によるふれあいと親しみやすさを活かしながら、小分け販売や試食などを行うことにより、市日の魅力づくりに取り組みます。
- ・ 開催場所は、移転を含め適切な場所の確保を検討するものとします。
- ・ 定期市場の施設整備にあたっては、出店・利用環境の向上と周辺環境に配慮します。



7 まちづくりビジョンの推進

本ビジョンを踏まえて、今後、まちづくりの具体的な事業、達成目標、実施計画等を明らかにした（仮称）鹿角市まちづくり推進計画を策定し、これをもとに、中心市街地活性化に向けた事業を着実に実施していきます。

本ビジョンの実現のためには、市民、商業者、企業、行政等の共働によることが不可欠であることから、ビジョンに係る関係者・関係機関が一体となったビジョン推進体制づくりを進めるとともに、取り組むべき具体的な事業や活動についての各々の役割分担を明確化することが必要とされます。



8 まちづくりビジョン策定体制

本ビジョンの策定にあたっては、中心市街地の関係者・関係団体、公募による市民の参画を得て「まちづくり懇話会」及び「市民検討委員会」を組織するとともに、「専門部会」及び庁内検討組織としてワーキンググループを組織して、策定を進めました。

○まちづくり懇話会委員名簿

氏 名	所 属	備 考
佐 藤 祥 二	かづの商工会 会長	座 長
晴 澤 久	鹿角市老人クラブ連合会 会長	
阿 部 恭 子	鹿角市地域連合婦人会 会長	
石木田 まり子	鹿角市消費者の会 会長	
吉 田 孝 司	社団法人鹿角青年会議所 理事長	
桜 川 清 司	JR 東日本鹿角花輪駅 駅長	
平 塚 幸 男	秋北バス株式会社花輪営業所 所長	
柳 舘 健 一	かづの農業協同組合 代表理事副組合長	
桑 原 誠	秋田銀行花輪支店 支店長	
石 川 雅 英	株式会社花の輪 代表取締役社長	
千 葉 潤 一	十和田八幡平観光物産協会 会長	
吉 田 俊 龍	鹿角市社会福祉協議会 会長	
高 木 豊 平	鹿角市芸術文化協会 会長	
三 上 豊	鹿角市体育協会 会長	

○市民検討委員会委員名簿

氏 名	所 属	備 考
清 水 順 義	かづの商工会	委員長
石 川 ス ミ	鹿角市地域連合婦人会	
石 井 ミ エ	鹿角市消費者の会	
高 谷 秀 和	社団法人鹿角青年会議所	
桜 川 清 司	JR 東日本鹿角花輪駅	
平 塚 幸 男	秋北バス株式会社花輪営業所	
児 玉 忠 幸	かづの農業協同組合	
馬 淵 大 三	かづの商工会	
海 沼 繁 雄	株式会社花の輪	
菅 原 崇	鹿角市社会福祉協議会	
栗 山 尚 記	公募	
星 川 由 則	公募	
土 舘 昇	公募	
阿 部 益 栄	公募	
丸 岡 隆 子	公募	
大 森 好 一	公募	
高 橋 節 夫	公募	



秋田県鹿角市

〒018-5292 秋田県鹿角市花輪字荒田 4 番地 1
電話(代表)0186-30-0203

<http://www.city.kazuno.akita.jp/>
E-mail: info@city.kazuno.lg.jp